

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500296		
法人名	有限会社プライムタイム		
事業所名(ユニット名)	グループホームひまわり		
所在地	和歌山県有田市箕島22-1		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071500296&amp;SCD=370&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071500296&amp;SCD=370&amp;PCD=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成23年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街も近く、魚屋さんなどが毎日尋ねてきて来て下さいます。入居者様が作った雑巾やフリーマーケットを開催した収益を小学校に寄付するなどして地域に貢献させて頂いています。入居者様が静かな落ち着いた雰囲気、思い思いの時間が過ごせるように本人本位のケアに取り組み、また少しでも気持ちよく生活して頂けるように、タクティールケア(スウェーデンで生まれた緩和ケア)も取り入れています。それぞれの嚙下の状態に合わせて、ミキサー食・とろみ剤などの支援を行なっていますが、色合いや好みの味等を考慮しながら、食への楽しみを持って頂けるよう工夫も行っていきます。今年は、看取りケアをさせて頂きました。その都度、利用者本位でご家族と繰り返し、インフォームドコンセントを行い、主治医や看護師とも連携をとり、またマニュアルの検討も行ないながら職員で取り組んでいます。運営推進会議では参加者の方々から、積極的な意見を頂き、サービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を含むみんなで作り上げた理念の「和んで、笑って、つながって」は、地域の中で近所づきあいを大切にそしてその人らしく楽しく暮らしていくという理想的な日常生活そのものである。外出時には、個人商店が多い商店街で「まあ、お茶でも飲んでいかんかー」との声がかかるなど地域になじんでおり、利用者の表情も大変明るい。手作り雑巾やフリーマーケットの売り上げを小学校に寄付して表彰されるなど、地域貢献も果たしている。職員は最近看取りケアを行い、悲しみの中にも充実した経験となり自信に繋がっている。意欲的で質の高さが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和んで 笑って つながって」を合言葉に、家庭的な雰囲気の中で、互いに支え合い、地域の人々と交流を図り、地域に根ざしたホームを確立すべく理念を作っている。理念を職員の目に付く入り口に掲げ、各自確認し、カンファレンスでも話し合っている。	地域の中でその人らしく楽しく暮らし続けるといふ、自分たちに合った理念を利用者も一緒になって作りあげており、共有を図りつつ実践に向け取り組んでいる。近年職員の異動がほとんど無く、家庭的な和やかな雰囲気の中で利用者と旨くつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との買い物を通じての商店街の方々と交流や、地域の溝掃除へ参加するなど交流を行っている。地域の夏祭りには、事業所前でフリーマーケットを開催し、収益を地域のために使っている。	散歩がてら商店に出かけ、買ったものを届けてもらうことで新たな交流も生まれる。利用者が作った作品を地元催事に出品したり、手縫いのぞうきを学校に届けるなど、地域の一員として積極的に取り組んでいる。自治会に加入し、職員が溝掃除等も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	手作りの雑巾を利用者と共に、小学校へ寄付したり、夏祭りに利用者と一緒にフリーマーケットを開くなど、地域の方と接する機会を作っている。今後は、地域の人々に対して、認知症のかかわりについてお話をする機会を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況やそれに応じたサービスの取り組み、行事報告、災害対策などを報告し、推進委員から意見や提案、助言等を出して頂き、それを実行しサービスの向上に活かしている。	10月～1月の蜜柑の繁忙期を避けて2ヶ月に1回を目処に開催されている。日常の状況報告や取り組み、情報公表制度の結果報告等も行っている。参加者は地域との交流を大切にする視点から、地元の歩行者天国やフリーマーケット、縁日、夏祭りなどへの積極的な参加提案も多く、サービスの向上に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、相談し協力関係の構築に努めている。運営推進会議にも毎回、参加して頂いており意見を頂いている。	管轄の有田市の熱心な関わりがあり、運営推進会議等も予定の時間を超過して報告や意見交換がなされている。また、日常的にも積極的な協力関係が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員内で「身体拘束廃止委員」を配置し、随時、事例検討会や勉強会を行なっている。職員は言葉の拘束も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの代表が看護協会で講師を務めるなど、身体拘束をしないケアについての理解が深い。利用者の安全確保も踏まえ、利用者個々の尊厳を大切にしている。	高齢者の権利擁護、スピーチロックも含めた身体拘束について、さらに職員間で理解を進め、ステップアップされるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では定期的に勉強会を行い、職員の外部研修への参加など、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や自施設の勉強会にて、学ぶ機会を持っている。家族から、相談があった場合には手続きの仕方などを伝えたりしながら、必要性に応じて活用できる支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行なう際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、グループホームでできること・できないことや希望する生活を支援していく上でのリスクの説明を行い、十分にご理解・納得を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の会話や様子などにより、思いや希望・意見などを聴き出せるよう努力し、話し合い、検討を行い対応している。ご家族の訪問も多くその際に意見を聴かせて頂き、対応をさせて頂いている。遠方の方も1ヶ月に1回は訪問される。また、運営推進会議でも意見を頂いている。	会議等を通じ、地元のお祭りへの参加など種々の積極的提案があり、それを活かす形で地域と一緒に楽しく繋がる方向性が見いだせている。利用者の思いは、日々接している中で職員がくみ取り、また、あまり来所されない家族とも月1回の面会時には極力意見要望を引き出すよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは月に1回のカンファレンスや、年に2回行う代表者と職員の個人面談で思いや意見を聴いている。	このところ職員はほとんど異動がなく家族的な雰囲気運営されており、月1回のカンファレンスや年2回の個人面談にて管理スタッフに気軽に種々の相談を持ち込める配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等に対する昇給や業務延長への配慮などを行なっている。1年に1回の面談と随時の職場環境への配慮により、職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員には新人研修として、認知症や理念・介護保険等の勉強会を事業所内で実施し、その後、段階に応じて勉強会を1ヶ月1回を目安に実施している。その他、実践者研修や法人の研修などへも参加している。外部講師を招いての勉強会なども実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者合同意見交換会や勉強会への参加にて交流を行っている。近隣の事業所とも電話連絡や相互訪問を行なうことにより情報を得るなどして、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お宅に訪問させて頂いて面談を行い、ご本人の困っていることや不安なこと、既往歴、生活歴、要望等を十分に聞き、アセスメントを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内またはお宅に訪問させて頂いて面談を行い、ご家族の困っていることや不安なこと、ご本人への思い、要望などを十分に聴く機会を作るなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と面談にて相談を受け、お話を聞くことにより、ご本人や家族の状況においては、他のサービスの紹介も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活観、価値観、思いなどを理解し、利用者というくくりで接するのではなく、尊厳の気持ちを持って接し、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と喜怒哀楽を共にし、家族が常時訪問しやすい雰囲気に努めている。また、常時家族が思っていることを打ち明けやすい環境や相談しやすい雰囲気を整えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの職員としては、知人やご兄弟などに手紙を書いたり、電話をかけたりの支援を行なっている。実家への帰省や親戚宅への訪問・墓参りなどはご家族の協力を得ながら実施し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	これまで培ってきたなじみの関係を支援するため、墓参や実家、親戚訪問等行っている。長年文通し交流のある体操の恩師のところへ家族付き添いのもと、5泊の旅が実現した利用者の家族から、旅行中の詳細な報告書をいただく等、家族も職員も協力してなじみの関係が途切れないよう、配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者さんの関係、またはどうしても合わない利用者さん同士の関係を配慮しながら、居間で過ごされる時の居場所作りや雰囲気作りなどに配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、関係性を断ち切ることなく、必要に応じて相談等の支援に努めている。また、看取りをさせて頂いたご家族にも引き続き運営推進委員を引き継いで頂け、ご意見を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や、ふとした機会に話す言葉を聞き逃さないように気をつけている。また、定期的にセンター方式を取り入れ、できるだけ本人本位のケアができるように配慮している。希望がはっきりしない場合は、ご家族からのお話も聴くようにしている。	日ごろのケアの中で利用者のニーズをよく観察している。センター方式や「ひもときシート」(ニーズをいろいろな方面からみる手法)の活用などでスタッフ間で情報の共有も計られている。家族からも情報を得て、「理念」を常にケアの中で心にとどめ反芻することで心情に寄り添った観察を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とお話をさせて頂き、また担当だった居宅のケアマネに情報を頂くなどして、入居までの暮らし方や生活環境等の把握に努めている。またセンター方式を活用やカンファレンスを行うことにより、職員全員が情報を共有し把握することで、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、個々の介護日誌・支援経過に記録し申し送ることにより職員全員が把握するようにしている。利用者の状態に応じてはケース会議も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員でモニタリングを行い、カンファレンスでその人の思い・健康状態・環境へ視点を置いて話し合い、見直しを行っている。そして、検討を行なった上で、随時現状に即した個別の計画を作成している。	担当者を決めモニタリングを行っている。基本的には3ヶ月に1回見直しを行い担当者会議等で確認している。変化に即応するため関係者間での調整や意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録において、毎日の気付きや経過、ケアの記録を個別に行い、職員で情報の共有を行い、随時検討をしながら介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時には、ご家族と外食に出かけたり、帰省されたりしている。散髪なども地域の理容室に出かける方もいれば、ボランティアの美容師さんにして頂く方もいる。通って来られる方と将棋を楽しまれる方もいる。タクティールケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の方や行政の方などから意見を頂き、公民館で開催されている催しごとなど地域資源の把握に努めている。地域や警察の方々には非常時の協力をお願いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望で決めており、定期的な通院・往診を支援している。状態によってはご家族の同席をお願いしている。Drとは常時連携を取っており、緊急時の対応や看取り時の対応もお願いしている。	協力医として内科、整形外科、歯科医とは連携が図られている。元々の主治医との継続受診や往診も支援し、遠方の場合は家族が対応するが初回受診時は職員が同行し、医師との意思疎通を図っている。緊急対応や重度化、終末期等の対応も含め連携できるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者がいつもと違う様子がみられた時は、すぐに事業所内の看護師に相談し、状態を確認している。看護師による、日々のバイタルチェックなど体調管理を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中、1ヶ月間は居室を確保し待たせて頂く事で、本人及びご家族が安心して治療できるように支援している。そしてできるだけ早く退院ができるように病院側と情報交換を行っている。情報交換や相談も含めて、病院の地域連携室の関係者と交流を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「事前指定書」として、重度化した場合、終末期に向けた要望を文書で交わしている。また、看取りにおいても、再度家族と随時話し合い、主治医、また場合においては市役所に相談しながら支援している。看取りのマニュアルも常時、職員で見直しを行っている。	最近看取りが2件あり、家族や関係者とたびたび話し合いを持ち、方針を共有しながら取り組んだ。末期に家族のもとに戻っていた方が「早くひまわりへ帰らな」と囁かれる等、ホームは家庭でもあった。そのホームで共に過ごし、職員もチームの一員として支援し、結果的にレベルアップにつながった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、マニュアルや介護計画書において周知している。研修への参加や勉強会を実施し、1年に1回の救命講習にて全ての職員に、実践力が身に付くように努めているところである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回は夜間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議でも取り上げ、地域での避難訓練への参加の提案があり、参加の方向で検討中である。	消防署の指導での避難訓練も行っているが、このところの台風12、15号のような大きな災害もあり不安が残る。近くの河川が氾濫したと想定すると、避難場所は近くにあるが現状では誘導路も未整備で高齢者には困難と思われる。幸い3階以上の建物なので高層階への避難誘導を考えている。火災対策は煙対策として濡れタオルを毎晩枕元に置くよう指導している。	地域で行う訓練への可能な形での参加も近隣との連携上は欠かせないが、さしあたり事業所の現状に沿った形での独自の取り組みが重要となるため、今後、さらなる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の介助や着衣交換と際など、タオルを使用したりドアを閉めるなどの配慮を行っている。失禁や重ね着などが見られた時は、自尊心を傷つけない声かけを行うよう、配慮している。	排泄時や着替えの際、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。例えば、リハビリパンツを裏返して着用する利用者がいても、その理由や過去の経験についても考え、職員が表縫い目に縫い直すなど細やかな対処をしている。	ご本人の希望と思われるがお名前をちゃん付けされる場面があり、なれ合いにならないよう、今一度職員間での確認を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自己決定をできるように働きかけている。意思疎通が難しい時は、表情や様子・発する言葉から思いを聴かせて頂く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の「自分らしい生き方・生活」の実現に向けた支援が出来るように努めている。「散髪に行きたい。」「買い物に行きたい。」などの希望があれば、その日のうちに希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を着る時は、ご本人の着たい服を着て頂くように努めている。指輪などのアクセサリもされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできることを行って頂きながら、一緒に行っている。朝食などもパンが好みの方はパンを召し上がるなど好みに添っている。献立も一緒に考えるように努めている。介助が必要な方もいるが出来るだけ職員も一緒に食事を取って、楽しみながら食事をとって頂けるように支援している。	利用者のこれまでの経験やどんなことが得意なのか、また出来るかを見極め、献立作り、調理などに参加していただいている。職員もさりげない介助をしながら一緒に食卓を囲み、雰囲気盛り上げ食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にチェック・記録を行い、1日を通じての食事量・水分量を把握し確保できるように支援している。個々の状態に応じて、とろみ剤を使用したり、ゼリーやアイスクリームなど摂取できるものを考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に応じて、声かけを行ったり、見守り・介助を行ったりしている。疎通が困難な方やうがい等が困難な方には、クルリーナブラシやガーゼなどを使用し、口腔ケアを行っている。また、随時、歯科衛生士による口腔内のアセスメントも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、出来るだけ紙おむつを使わない生活を送れるよう支援している。排泄についての委員会を設置し、排泄ケアの向上に努めている。	日常的な排泄パターンや日ごろの水分摂取量のチェック、詳細データに基づいてタイミング良くトイレ誘導し、出来るだけ紙おむつを使わないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や乳製品・水分の摂取、入浴時の腹部マッサージなどを行っている。散歩や椅子に座っての運動などの支援も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は難しいが、出来るだけ本人の希望する時間に入浴できるよう支援している。ゆっくりと楽しんで入浴できるように、浴室内の環境にも配慮している。	基本的なスケジュールはあるが、日常の観察で個々の生活パターンや好みを理解している。その日の体調や希望を考慮し、朝から夕方までの時間帯で個別対応するよう支援している。また浴室に富士山の壁紙を貼ったりして窓のない空間を楽しめるものに演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調によって横になって頂く様にしているが、職員や誰かがそばにいることによって安心して休むことが出来る利用者もおり、そんな方のために、居間に折りたたみのベッドを用意するなど、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容、効能・副作用を記載したファイル職員がいつでも確認出来るように配置し、理解している。服薬内容の変更については業務連絡・引継ぎで確認を行い、症状の変化の確認を行い、主治医にも報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やできることをご本人や家族から聴くなどしてアセスメントを行い、チームで利用者一人ひとりが張り合いを持って喜びのある日々を過ごせるように話し合いながら、支援を行なっている。(出来る家事への参加、利用者同士の将棋、音楽の好きな方への音楽療法など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好みの美容室や喫茶店、商店街での買い物など個人の希望に合わせた外出支援を行なっている。遠方や親戚の家などへの訪問、墓参りなどは、家族の協力を得て行っている。	利用者が行きたい時に行きたい所へ行けるよう、スタッフは余裕のある体制づくりを考えている。近隣の商店街に出かけたり、車で外出をするなど希望に添うよう支援している。墓参りや親戚等への外出には家族の協力を得て、なじみのある人や地域と繋がった生活ができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ほとんどがご家族が管理されているが、支払いのできる利用者はお金を持って買い物に出かけるなど、個々の希望や力に応じて支援を行っている。預かり金の保管は、事務所で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望があれば、支援を行なっている。お友達やご家族にハガキや年賀状を一緒に書くなど支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を工夫して利用している。居間には季節感のあるタペストリーやお花などを飾り、環境に応じて、CDなどで音楽を流して出来るだけ着心地よく過ごして頂けるように支援している。浴室などにもお花を飾るなど、気持ちよく入って頂けるように工夫を行っている。	閉塞的な環境を明るく過ごすため浴室の壁面に街の銭湯でお馴染みの「富士山」が設えてあったり、季節感を演出するため脱衣場の壁面に手作業で花の絵が描かれていたり、いろいろなところに工夫のあとが見られる。食堂は、狭い空間を上手く活かしこじんまりとしており、家庭的な雰囲気です協働作業が行えるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やローカなど限られた空間の中で、お茶や読書が出来るように椅子やテーブルを置くなど工夫を行っている。利用者同士の関係を配慮しての個々の居場所作りの検討もカンファレンス等で行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を利用しており、ベッドやロッカーが設置されているが、カーテンなどは好みのものを聞き、ホームで用意している。写真やタンスなどなじみのものを置き、居心地よく生活できるよう工夫している。	居室の間取りはほとんどが同一の洋室であるが、馴染みの品々を持ち込み、各人各様の思い出と共に暮らしている。家族や訪問者が届けた物も彩りを添え、人との温かいつながりが途切れないよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を出来るだけなくし、手すりをつけることにより転倒防止の配慮を行なっている。居室やトイレなどがわかるように表札を掲げるなど工夫を行っている。		